

祝 頸城中学校創立40周年 ～校長式辞～

本日ここに上越市立頸城中学校、創立40周年記念式典を挙行いたしましたところ、上越市教育委員会教育長 野澤朗様、頸城区地域協議会長 井部辰男様をはじめ、たくさんのご来賓の方々のご出席を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

さて、本校は昭和55年4月1日に大湊中学校と明治中学校が統合し、頸城村立頸城中学校として産声を上げました。3月21日に校舎が完成し、4月から現在の校舎で教育活動を開始しました。その後体育館、武道場の順に完成し、竣工式が10月26日に行われています。

当時の頸城村教育委員長 岡村正夫様は「遠く妙高米山の雄姿を望み、四季の天気がガラスに映る自然環境の中に白亜の教育殿堂が村のほぼ中央に完成しました。その内外の施設設備は近代的な偉容を整え、他に誇りうるものです」と述べています。

また、初代生徒会長 長谷川哲（さとし）さんは「私たちは、統合したわけですから、当然、2つの地図と2つの方位磁石がありました。この両方の良いところをとって、道を造っていくという考え方もありました。ですが、私たちとしては、大湊中学校のものでもなく明治中学校のものでもない、つまり頸城中学校独自の地図と方位磁石を造り出し、それを基にして、我々の進むべき道を、この果てしなく広がる大平原に刻み込もうと、やってきたつもりです」と統合1年目を振り返っています。

創立当時、地域の皆様の頸城中学校にける期待や思い。さらに、設備の整った新しい校舎で新たな伝統づくりをしていこうという生徒間で共有していた強い意気込みを感じることができます。

私たちは先輩たちが築き上げ、脈々と受け継がれてきたこの「開拓精神」を礎に、本校の伝統をさらに発展させていかなければなりません。次は、生徒一人ひとりが頸城中学校生徒としての誇りをもって、後輩たちのために新たな歴史を築いていくことを願っています。そして教職員が一丸となり、誰からも愛される生徒の育成、地域の皆様からも愛される学校づくりに邁進して参ります。

このあとの公演会では、ラフベリーさんから公演を行っていただきます。この中で本校卒業生であるラフベリーのカズさんと連絡を取りながら、生徒、保護者から歌詞のキーワードやフレーズを募集し、作っていただいた「七色模様」という素晴らしい合唱曲を披露させていただきます。ラフベリーさんと当校生徒と教職員のコラボで合唱します。私たちはこの歌を大事にし、代々、歌い継いでいきたいと考えています。

最後になりましたが、本校創立40周年を迎えた記念すべき年に当たり、この40年間の歳月を振り返り、移り変わる社会情勢の中で、新しいものを創りあげてこられた関係各位の情熱と意気込み、行動力に敬意を表するとともに、本校を物心両面から支えていただき、ここまで立派に育てていただいた上越市当局並びに教育委員会の皆様、保護者や地域の皆様、卒業生、歴代校長、お勤めいただいた教職員の皆様、すべてに対して、改めて衷心より感謝申し上げます、式辞といたします。



記念式典・記念公演 盛大に開催

台風19号の影響で実施が危ぶまれた創立40周年記念式典と記念公演。残念ながら、記念祝賀会は取りやめとなりましたが、記念式典並びに記念公演は、保護者の皆様から生徒送迎のご協力をいただき、無事開催することができました。誠にありがとうございました。



「40年の過去があり今がある。逆に皆さんには40年以上の輝かしい未来がある。どんな時でもこの地で学び育ったことを忘れず元気に頑張ってもらいたい」(上越市長代理、野澤朗教育長様のご祝辞から)



「過去から現在に至る、頸城中にかかわるすべての皆様からのお力添えに感謝し、現在の頸城中を『愛される学校』として前進させたい。この先もずっと『愛され続ける学校』でありたい。」(生徒代表 生徒会長太田嘉洋さんの言葉から)

10年に1回しかない学校の誕生会。記念公演の最後には、Rafveryさんと頸城中生徒の共作による40周年記念合唱曲『七色模様』を全校生徒で発表し、40周年を盛大に祝いました。過去を振り返り、未来を展望することで、一人ひとりが「今」を実感できた1日となりました。



頸城中学校の創立40周年を学校・保護者・地域一体となり祝いました



Rafveryのお二人と全校生徒で



上越タイムス(令和元年10月16日)より

子ども達を守り、正しい方向へ導くため大人にできること ～臨時保護者会でのご意見から～

9月25日に臨時保護者会を開催し、最近学校で起きている心配な出来事をご説明いたしました。当日は夜遅くにもかかわらず137名もの保護者の皆様からお集りいただきました。誠にありがとうございました。

後半は、学級に分かれて意見交換会を開催しました。担任から学級の様子を説明させていただいた後、「いじめをなくすために保護者にできること」「子ども達がメディア機器を正しく使うために保護者にできること」について意見交換を行いました。ある学級では、今回の話し合いをきっかけに保護者間で「LINE は22時まで」という学級ルールを制定したとのこと。まさに我々大人の本領が現れていると感じました。



①いじめをなくすために保護者にできること

- ・学級で起こった出来事を毎日聞くなど、普段からのコミュニケーションが大切。
- ・子どもの話は真剣に聞く。
- ・子どもが困った時に自分から親に言い出せる雰囲気作りが大切。
- ・親が子のスマホ（携帯）をチェックする。
- ・スマホ（携帯）からいじめが始まることが多いので、スマホは使用させない。
- ・暴力は絶対にダメだと繰り返し伝える。
- ・子どもの日常をしっかり見とる。
- ・普段と様子が違うと感じたら、子どもに声を掛ける。
- ・保護者同士のつながり、情報交換。
- ・子どもから「情報を聞いて終わり」にしない。何かあったら自分の子どものことでなくても学校に知らせる。
- ・言葉に気を付けるよう常に子どもに話す。
- ・物事の良し悪しをその都度伝えていく。
- ・いじめは「犯罪」であることを伝える。
- ・いじめがなぜダメか家族で話し合う。
- ・相手の立場で行動できるよう日々話をする（自分がされたら嫌なことを確認）。
- ・親が現実の生活を大切にさせる。（楽しいことを親子で探し、一緒にやる）
- ・親が子どもの前で他人の悪口を言わない。
- ・いじめが起きた、その先のことを話して、想像させる。（された人以外にも大勢の人が悲しい思いをするという事実）

②子ども達がメディア機器を正しく使うために保護者にできること

- ・スマホ等の通信機器を買い与えない。
- ・LINE 等のグループには入らせない。
- ・メディア利用のルールを決める。
 - ※21時以降は使用を禁止。
 - ※夜間は機器を親が預かる。
 - ※ルールを守れない場合は、一定期間取り上げる（反抗しても強制的に。最後は親が砦となる）。
 - ※機器の利用はリビングで。（自分の部屋にはもって行かせない）
- ・子どもがメディアを使って何をしているのか、会話を通して親が知っておく。
- ・スマホ等は親が利用内容を確認できる状態にしておく。（パスは親が管理）
- ・iPhone の場合、「スクリーンタイム」機能を必ずチェック（利用）する。
- ・オンラインゲームは、親の目の届くところでさせ、時には親も会話に参加する。
- ・端末の管理を親が責任をもって行う。
- ・フィルタリング機能や時間ロック機能等を必ず使用する。（制限がかけられないものは持たせない。）
- ・親もメディアのことを勉強（理解）する。
- ・やってはいけない事（個人情報などを流さない等）を、その都度話題にし確認する。
- ・本当に必要な時にしか利用させない。
- ・子どもだけにメディアルールを守らせようとしてもだめ。大人も同じルールで。

頸城中生徒の活躍 ～これからも応援をお願いします～

◆上越市科学研究発表会（9/27） 科学部 奨励賞（3チームとも）



空中浮遊細菌の繁殖に関する研究



加速率の変化に関する研究



ダイコンの成分に関する研究

◆上越市合同新人大会（10/3）

野球部

対柿崎 0 - 4 惜敗
対直江津 2 - 5 惜敗

テニス部〈団体戦〉 3位

予選リーグ 1勝1敗
決勝トーナメント
準々決勝 対吉川 2 - 1 勝利
準決勝 対糸魚川 1 - 2 惜敗
3位決定戦 青海 2 - 1 勝利

新体操部

〈個人戦〉入賞者なし

バレーボール部 ブロック3位

対中郷 2 - 0 勝利
対板倉 1 - 2 惜敗

卓球部

〈団体戦〉予選リーグ
対清里 2 - 3 惜敗
対城西 0 - 3 惜敗
対三和 1 - 3 惜敗
〈個人戦〉入賞者なし

サッカー部 ブロック3位

対新井 2 - 2 PK 2 - 4 惜敗
対糸魚川 1 - 0 勝利
(シード決めリーグ戦出場権獲得)

◆防火ポスターコンクール 美術部

最優秀賞 2年 須貝 温実 さん
佳作 1年 島田 凛音 さん

なお頸城中は「学校賞」も受賞いたしました！

◆新潟県よい歯の学校 優秀校

今回は、優秀校、優良校、努力校として全21校が表彰されました。当校は、豊原小、板倉中、高田高と並び、優秀校に選ばれました。

